

就任挨拶

日本小児整形外科学会理事長
国分正一



本学会は平成13年4月から2年半にわたって、「学会あり方委員会」を通して学会の活性化策を検討し、その努力が去る平成15年11月21日・22日に開催の第14回日本小児整形外科学会で会則改定として実を結びました。それによって理事長制が導入され、学会終了直後に開かれた理事会で互選の選挙が行われて、初代の理事長として図らずも私が選出されました。そこで、理事長の初仕事として、副理事長に佐藤雅人理事(埼玉県立小児医療センター)を指名させて頂きました。これらのことを会員諸兄に御報告致しますとともに、就任の御挨拶を申し上げます。

理事長制導入には、同様に理事長制を布いている日本整形外科学会と比べて本学会の規模が小さいことから、当初は時期尚早の意見が少なくなかったことを思い出します。しかし、小児整形外科を取り巻く医療状況、国際化等を考えますと、会長には学術集会の準備・開催に専念して頂き、新設の理事長に他の面の学会運営を委ねるのが得策との結論に至ったものです。従って、理事長に選出された私としては、会長の「荣誉」と「学術集会の個性ある開催」を決して侵すことなく、本学会の効率的な運営に心掛けて参る所存です。

未曾有の高齢化によって国民医療費が高騰し、経済の停滞と相俟って、医療費抑制政策が強く打ち出されています。ただでさえ経営が困難な小児病院、肢体不自由児施設における整形外科診療にも多大の影響が及んでおり、その傾向は強まる一方です。そこで、小児整形外科診療の重要性が広く認識され、保険制度上の扱いが改善するよう、日整会や小児関連学会と連絡を密にし、歩調を合わせて関連省庁に当たって参る所存です。

発足以来、本学会は国際化に努めて参りました。既に北米小児整形外科学会(POSNA)および韓国小児整形外科学会(KPOS)とアライアンスの関係を結び、山室・荻原フェロシップを始めとする4つのフェロシップを有しています。若い会員には国際交流を通して刺激を受け、新しい姿の小児整形外科医を目指して頂きたいものです。この面にも力を注ぐ所存です。

今後3年の任期にあって期待に背かぬよう努めて参りますので、宜しく御支援を賜りますようお願い申し上げます。